

術 前 訪 問 を 試 み て

中央手術部 発表者 沢 谷 ゆき江

中 込 恵 子・細 川 えり子

征矢野 美枝子・西 沢 ミツ代

I は じ め に

「術前訪問」この言葉もさほど耳新しい言葉では無くなりました。諸々で実施され、その成果が発表されている昨今ですが、毎日の業務に精一杯の私達には末だ身近に感ずる事が出来ず、それがこれからの手術室看護を大きく前進させる一つの足がかりとして認識するには、その実態があまりにもぼやけています。術前訪問とはどんなものなのか、その実態を知る、を目標にまずは体験し、何かをつかんでみたいと思いました。

II 直 接 の 動 機

「手術に対する不安感の子供だけじゃない。」 7ヶ月程前のある日、病棟勤務経験を持つ同僚から言われました。小児とのコンタクトにまったく自信の無い私は、手術室で患児に泣かれるのが怖くて、それに泣く程の恐怖感が患児の将来の精神生活にどんな悪影響を及ぼすかが不安で、そしてもちろん激しすぎる啼泣はスムーズな麻酔導入の妨げになる等の理由から、時折手術前日に患児を訪れていたのですが、それを知った同僚ナースに「どうして一人だけでやっているのか？」と聞かれ、即座に答えてしまいました。「経験のある有能な看護婦は患者を泣かすことなど無く、たくみに麻酔導入にもって行けるのだらうけれど、私にはまったく自信がないから。」と。話すうちにその自己中心的考えでは発展性がなく、「良い事ならば私達も！」との声にうながされて、今回の試みとなりました。

III 術 前 訪 問

期 間……昭和50年4月21日から現在

対 象 者……担当の手術患者

訪問時間……手術室業務終了後

訪 問 者……沢谷、中込、細川、征矢野

1. 訪問の意義

- a) 患者は手術の大小に関係なくかなりの不安感を持っている。
- b) 現在の手術予定表のみでは患者の状態、手術の明細など把握しにくい点が多い。
- c) 小児の特殊性

- o 小児は小さな大人ではない。

- o 小児の精神状態は非常にデリケートであり、未知なものに対する不安感及び恐怖感是我々の想像以上のものである。またそれが患児の精神生活の将来に何らかの形で悪影響を及ぼすかも知れない。それだけに直接接する私達の態度は重要な意味をもつのではないだろうか。

- 発育途上にある小児の身体はその成長に個人差があり、年令、身長、体重等のみではその体格を把握しにくい。事前に適確な準備ができる事により、より円滑な諸操作が可能となる。

2. 訪問の目的

- a) 患者と面識を持ち、術前オリエンテーションをする事によって手術に対する不安感の軽減を計る。
- b) 患者及びその手術に関する情報の収集により、手術に付随して起り得るあらゆるアクシデントの発生を可及的に防ぐ。

3. 訪問の内容

a) 情報の収集

手術依頼表・病棟看護日誌・麻酔依頼書・麻酔オーダー書

などを参考に病棟ナース及び患者本人から情報を得る。

<チェックポイント>

患者の症状及び一般状態

術式、体位、特異体質の有無、既応症の有無、手術経験の有無、表在静脈の様子、患者の背景及び性格、その他、手術に当って不都合な点等。

b) 術前指導内容

(1) 手術前夜の睡眠の重要性

(2) 術前の食事、水分摂取、排尿排便、前投薬、手術室入室時間

(3) 手術室における諸処置の説明

<ターバン> 髪を包み込み、安静の意も含んで目をも覆う。

<脱衣> 清潔区域内での操作上、手術室専用の上下シーツ使用

<血圧測定>

<点滴> 局麻施行後エラストー針留置

(4) 麻酔について

- 全麻、腰麻、局麻の概要を説明

- 腰麻の体位について

- 深呼吸の練習

- 小児の場合

- O_2 マスク、マンシュートなど持参し大きさが適当である事を確認すると共に、器物に慣れさせ円滑な麻酔導入介助の助けとする。愛称などを知り、仲良しになるよう努める。

- その他、手術に際しての心配事など相談に乗る。

4. 訪問にあたって懸念される問題点

- 1) 訪問により患者は必要以上に事の重大さを感じ、不安感を増すのではないか。

- 2) 手術患者すべてを訪問する事ができないので、同室の特に同日手術予定の患者への精神的

影響があるのではないか。

3) 患者の安静、診療の妨げになる恐れもある。

5. 対 策

1) 訪問の際の態度、術前指導方法があまり深刻になりすぎないように留意する。

2) 同室の患者にも一般オリエンテーションを共にし、不公平という感じを与えない様にする。
又は面談室を使わせてもらう。

3) 病棟との連絡を密にし独断行動は慎む。

訪問実施件数

	乳 児		幼 児		10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
一 外	1	1		1			2				3	2	3	1	2	1	1	
二 外			1				1		3		3	1	1	1	3			
整 外		1	1				1				1							
耳 鼻				1			1	2	1	1					3	2	1	
婦 人							1		1		1		1					
歯 科				1			1											
眼 科				1														
泌 尿																		
放 科															1			
三 内					1													
	1	2	2	4	1		1	6	2	5	7	5	4	3	9	3	2	

男性 29例 女性 28例 計 57例

麻 酔 別

	成 人	乳 児	幼 児
全 麻	36	3	6
腰 麻	4		
局 麻	8		

N 術前訪問を試みて

① 不安感の軽減に関しては訪問を体験した4人が皆、多いに有効であると確信しています。

患者の不安度を計るメジャーが無く、また同一の患者で訪問した場合と、しない場合を比べてみるわけにもまいりませんので、不安、の軽減可能などと大言することはまことに身勝手な話かもしれませんが、手術当日、前投薬を受け麻酔準備状態にある患者の傾眠を妨げることなく、

互いに意志の疎通、信頼感を感じながらスムーズな術前処置が行える事はあらかじめの術前オリエンテーションがあったことからこそと思います。

小児においてはいっそう効果が見られています。期間中の症例は9例のみでしたが、そのほとんどが啼泣することなくすなおに麻酔導入され、コンタクトのとれない患児にはそれなりの対処ができました。

- ② 術前、術中、術後のおもわぬアクシデントというものは総じて起ってしまったから後悔と反省をするものですが、今回の術前訪問により未然に防げた例がいくつかありました。一例をあげますと『43才子宮筋腫の患者で訪問して初めてロウアである事を知り、その極度な恐怖感と意志疎通の無さに大変苦労しましたが、時間をかけ、ようやく腰麻の説明を致しました。手術当日はさほどの恐怖感もなく進行でき、術後は話せないながらも、喜んでいただけた由の気持をあらわされました。

その他、表在静脈著明でない患者に遭遇した際、あらかじめの温湿布などの処置により不必要に患者に苦痛を与えることなく点滴確保でき、手術開始時間の遅延という事態をまぬがれた等、訪問の効果は顕在、潜在にあると思われます。

- ③ 実施前には予想だにできなかった問題が生じました。患者から御礼として金品が届いたのです。これには大変困惑し、患者の不安軽減どころか負担を負わせてしまうと、婦長や病棟ナースに相談をもちかけました。その結果、これはかねてから問題になっていることであり、病院全体として考えていかなければどうしょうもなくこの事でこれから行おうとしている大事に足ふみをしてしまうことのないように。それに物品として現われてしまったが、これは患者が喜んでくれている証拠だからとのアドバイスを受け、一度は見失いかけた目標を見なおし、さらに勇気づけられて進むことができました。

- ④ 私達の訪問に際し、業務の間をぬって患者のオリエンテーションをして下さる病棟ナースの業務への支障も問題になりました。手術室業務終了後というかぎられた時間内の訪問なので迷惑な時間に重なってしまった事もあったかと思います。そこで、病棟での術前指導と私達の行なおうとしている指導と重複の部など一本化できればお互いに、患者にとっても良い事なのではないでしょうか。

V 考 察

暗中模索に始めた術前訪問ですが、得る事が多く、これからの手術室看護を進める上で有益であることは想像以上のものでした。手術室には看護がない、などと言われた事もあっただけに、この術前訪問によって得られる患者との結びつきは新しい方向へ前進するひとつの足がかりとして着実に根をおろさねばならないと思います。そしてこれまで孤立的であった手術部が病棟との接点を広くし、患者の術前術中術後を通して知る事により、手術介助が主体の私たちの毎日がよりいっそう深く厚く充実されてくるものと信じます。

VI 今後の研究課題

- 1) 現在のように業務終了後に行なう術前訪問では手術部ナース全員が実施するにはかなり困

難な状態です。当面の対策として従来の手術依頼表に加え、手術患者チェックリストを作成し、診療科との連絡を密にする方法を、手術室全体の課題として早急に進めたいと思います。

2) 深呼吸、咳のし方、ベット上での足の運動等の練習を術前に効果的に指導する事により、術後の回復を速め、しいては平均在院期間が短縮されたというレポートがありました。このことから、看護婦全員が呼吸法、咳のさせ方等の指導法を学び、統一した看護指導が行なえるよう考えてみたいと思います。

3) 今回は術前不安について漠然としたものになってしまいましたが、他の文献からの例にみる①脈搏が平常より10回以上増加 ②最高血圧10mmHg以上の増加 ③口渴 ④発汗 ⑤速いキョロキョロした目の動き 等のバロメーターをもとに科学的裏付を持った看護がこれからは大切なことだと思います。

VII お わ り に

一度でも面識があれば知り合いで、会わねばまったくの他人なのです。お互いの信頼感はかなり違います。会うと会わないでは大違い。を最大の感想にこの報告を終らせていただきます。

この試みに対し多忙な業務の時間をさいて御協力下さった各病棟の皆様、本当にありがとうございます。今後の課題を進めるにあたっても皆様のお力添え無しにはできません。今後よろしくお願い致します。

参考文献

- 1) 看護学総論10 編集湯慎ます 医学書院
- 2) NURSING INTERVENTION WITH THE PRESURGICAL PATIENT-
THE EFFECTS OF STRUCTURED AND UNSTRUCTURED PREOPERATIVE TEACHING caro L A.ndeman NURSING RESEARCH
JULY-AUGUST 1971 VOL20.№4
- 3) EVALUATION OF ANXIETY AND FEAR IN ADULT SURGICAL
PATIENTS Loise.Graham.etc
NURSING RESERCH MARCH-APRIL 1971 VOC.20.№2
- 4) 術前術後の看護 メジカルビュー社 監修 金子みつ・鈴木チズ子・沢井美智子他
- 5) 看護面接の理論 Bermosk Mordan 松野かほる訳
- 6) 小児手術の看護業務 国立小児病院中央手術室編

患者名	○ 森 ○ 満	性別	女 ♀	年令	62	科名	整形	病室	505 号
診断名	後縦靱帯骨化症					手術月日 6月17日9時30分			
術式	椎弓切除術					予定所要時間 4 時間			
術者	大 塚	助手	山岡 , 久津内			受持医	大 塚		
希望する麻酔法	Ⓢ (COP)					血液型 A			
身長	162cm	脈博	70/min	体温	36.5℃	赤血球	339×10 ⁴	白血球	5700
体重	50kg	呼吸	/min	血圧	120~80	Hb	10.5 %or g/dl	Hct	30.4 %
尿所見		血清化学			検査 6月14日				
糖	()	血清蛋白	()	Na	()	ZTT	()		
蛋白	()	アルブミン	()	K	()	TTT	()		
1日尿量	()	ビリルビン	()	cl	()	CCLF	()		
尿比重	()	GOT	()	総コレステ	()	BSP	()		
濃縮試験	()	GPT	()	ロール	()	Ca	()		
PSP	()	尿素-N	()	Wa-R	()	P	()		
				AI フォス	()				
				フアターゼ	()				
肺機能				心機能					
理学的所見				レントゲン所見		理学的所見		心電図所見	
既往症ならびに注意事項									
頸椎の運動性は非常に制限されています。									
手術は、ギブスベットを使用して、腹臥位で行ないます。									
術中、ホスミンの使用をしたいと思います。									
Blut. F. 7本 . W. 3本									

麻酔オーダー書

○ 森 ○ 満 殿

1. G.O.F

導入時 G.O.F.

ラボナール

サクシン

カフ付ラセンチューブ #32、34、36

経鼻用チューブも一応用意

2% Xylocaine 2ccとともに

スタイレット

2. エラストー針 V₁

S.H. 5% DX

3. 直腸体温計

保温マット

4. Blood Warmer (新 7本、保3本用意)

5. E.K.G. モニター

6. 9時入室予定

注 ① 腹臥位(ギブスベット使用)

② 頸椎運動制限有り、急激に動かさぬ様

平田

参 考 文 献

1) 看護学総論 10 編集湯楨ます 医学書院

2) NURSING INTERVENTION WITH THE PRESURGICAL PATIENT -
THE EFFECTS OF STRUCTURED AND UNSTRUCTURED PREOPERATIVE
TEACHING caro A. Lindeman

NURSING RESEARCH JULY-AUGUST 1971 VOL. 20 No. 4

3) EVALUATION OF ANXIETY AND FEAR IN ADULT SURGICAL
PATIENTS LOISE. Graham. etc

NURSING RESEARCH MARCH-APRIL 1971 VOL. 20 No. 2

4) 術前術後の看護 メジカルビュー社

監修 金子みつ, 鈴木チズ子, 沢井美智子他

5) 看護面接の理論 Bermosk Mordan

松野かはる訳

6) 小児手術の看護業務

国立小児病院中央手術室編